



親子をつなぐ・地域をつなぐ・支援をつなぐ・アタッチメントのチカラ

第2回 育児セラピスト全国大会

in 2011

【報告書】

Report

後援：淑徳短期大学

主催：一般社団法人 日本アタッチメント育児協会

SYMPOSIUM

シンポジウム

2011. 12. 18 Sun

【1】 パネルディスカッション



シンポジウムは会場が一体となって、2012 年に向かう有意義なものとなったと思っています。「パネルディスカッション・交流会・優秀実践者発表会・振り返り」という4部構成だったのですが、これら全体を通して、ひとつの講座を受講したような「学び」や「気付き」、「決意」を持ち帰ってもらうことを目指しました。そのために、ひとつひとつの催しにテーマを設定しました。

- パネルディスカッションを通して「問題点と向き合う」
- 交流会を通して「仲間とつながる」
- 優秀実践者発表会を通して「共有する」
- 振り返りを通して、自らの活動や行動の方向性を「見つける」

上記の流れを通して、参加者の一人ひとりが、2012 年に向けての「一歩」を見出すことができることを目指しました。

後援：淑徳短期大学
主催：一般社団法人日本アタッチメント育児協会

第2回 育児セラピスト全国大会

親子をつなぐ・地域をつなぐ・支援をつなぐ・
アタッチメントのチカラ

2011年12月17・18日、第2回育児セラピスト全国大会 in 2011 が開催されました。

後援いただきました淑徳短期大学様、開催に際して多大なるサポートをいただいた同大学局長の小野寺様はじめ関係者の皆様には心からのお礼を申し上げます。

* * * * *

シンポジウムでは、「親子をつなぐ・地域をつなぐ・支援をつなぐ ～アタッチメントのチカラ～」をテーマに、パネルディスカッション・交流会・優秀実践者の発表を行いました。このシンポジウムは、「ひとつの講座を受けている」ような形で、参加者がそれぞれの立場から学びを得て、持ち帰っていただけるようなイメージで構成しました。

今大会では、ご出演いただいたパネリストの皆様、優秀実践者の皆様、そして、会場にお越しいただいた参加者の皆様の思いと、私たちの思いがつながることによって、「未来に向けての重要な価値」を生むことができた実感しております。

皆様に心よりの感謝を申し上げるとともに、ここに大会のご報告をさせていただきます。



SYMPOSIUM

そして、雑誌などのメディアと、対面のケアをする育児支援者の役割は別であることを理解し、両者が相互に「つながり」、社会にその価値を広く伝え、実践していくことが大切なのではないのでしょうか。例えば、メディアが「ベビーマッサージは心を育てる」などと取り上げることで、広くポジティブなイメージを与えられます。そのバトンを支援者は受け取り、現場でベビーマッサージを教えることを通じて、本質的に大事なことを伝え、お母さんの悩みや不安に個々に対応して安心させ、親教育を同時に行なう、といったことです。こういった連携で、育児知識不足の問題の解決の糸口は見えてきそうです。

テーマ2 この世から児童虐待をなくすためには

まずは、虐待の定義から入りました。ここでは、実際の暴力やネグレクトだけでなく、過度の暴言などを含めて子どもに恐怖を与えるような振る舞いを虐待と定義し、「このままだと虐待に至ってしまいかねない段階」と「虐待が行なわれてしまっている段階」に分けて、話し合われました。

前者の段階において、お母さんはとても追い詰められた状態にいます。その場合は、まず「認めてあげること」「寄り添ってあげること」。そのような中で、ひろせ幼稚園園長の野崎先生は「お母さんのお母さん役を買って出ます！」と言い切っていました。母親の愛情でお母さんを包み込んであげること、お母さんは追い詰められることが



なくなり、虐待を回避する一つの道筋になっているのです。

虐待の種は常に「弱いものへ」向かいます。そして最後には子どもに回って本物の虐待に発展します。それは、母親が子どもに当たってしまうとき、それは、夫が妻に当たっている背景があるかもしれません。夫は、会社の上司から当たられていて、それを妻にぶつけているのかもしれませんが。会社の上司はそのまた上司から…。つまり、虐待は、社会生活の中で連鎖反動的に起こっている場合があります。それは、簡単に解決策が見出せるものではありません。社会の構造的な問題も含んでいるからです。そのような状況で、我々が確実にできることは、子どもに虐待が行なわれないようにすることです。そのためには、子どもに最も近いお母さんをケアすることではないでしょうか。

後者の段階において重要だったのは、「虐待をしている親は、自分が虐待をしているとは認識していない」ということでした。乳児院しらゆりベビーホームの施設長の島田先生は、「まずは、虐待をしている親に、自分がやっていることが虐待なのだとわからせることから始める必要がある」しつけど信じて虐待行為に及んでしまう親は、自分のやっていることが虐待であるという認識は少ないといいます。島田先生は、「あなたには母性がある。だから大丈夫よ」と認めたうえで、お母さんの行動を再認識させることを行なっているといいます。子どもの言う事を無視したり、過剰に反応したり、子どもが危険にさらされる可能性を黙認したり、そんなちょっとした態度の中に、虐待につながる種があることを知らせるきっかけがあるといいます。

虐待を受けた子どもが親になったとき、同じように子どもに虐待してしまう「虐待の連鎖」。立場の強い者から弱い者へと向かい、最後には子どもにしわ寄せが来る「虐待の連鎖反応」。どちらも、どこかで止めることができれば…。そのためには、子どもの水際にいる親が、連鎖や連鎖反応を断ち切ることができるだけの知識を得ること、そして、そうした親を支える「母のような支援者」が重要ではないかと思います。その意味で、これからの「親教育」、そして「親支援」の意味において、育児セラピストの使命の大きさを痛切に感じました。

第2回 育児セラピスト全国大会

【1】パネルディスカッション



【ファシリテーター】

広島 大三 （社）日本アタッチメント育児協会 代表理事

今回は、「育児関連のマスメディアの現場」、「保育士、看護師養成の教育現場」、「保育および福祉における親子の現場」という、子育てにおける3つの違った立場でご活躍される方々をパネリストにお呼びして、意見を伺いました。

PANNELARS



吉田 行雄 様
(株) 保健同人社
代表取締役社長



金塚 方也 様
(株) 主婦の友社
ベビモ・プレ編集長



細井 香 様
淑徳短期大学
社会福祉学科准教授



坂本 享子 様
武生看護専門学校
専任教員



野崎 彰子 様
学校法人善衛学園
ひろせ幼稚園 園長



島田 恭子 様
白百合ベビーホーム施設長
精神保健福祉士

テーマ 1：「深刻さを増す親の育児知識不足」

テーマ 2：「この世から児童虐待をなくすためには」

それぞれのテーマから見出される「育児セラピストのミッション」

ーこれからの育児支援のあり方ー

テーマ 1 深刻さを増す親の育児知識不足

ここでは、「情報」と「知識」の違いを認識することの重要性が話し合われました。いまや育児情報はインターネット上に無料で溢れかえっています。これは一見便利で良いことのように、実は子育てをする親にとっては、迷いや不安を生む原因となっています。情報というのは、その背景や根拠を知り、情報と情報のつながりを理解した時に初めて「知識」となる。そうした知識こそが子育てをする上で必要である、ということが話されました。

お母さんの不安に答え、寄り添うためには、やはりメディアだけでは不十分で、対面のサポートとして育児の専門家が身近にいること。重要なのは難しい学術理論ではなく「大丈夫だよ!」の一言。でも、それを言ってくれる相手は知識のある専門家であって欲しい。例えば、白衣を着た助産師や看護師の「大丈夫だよ!」は2倍の頼もしさがある。育児セラピストも、お母さんにそんな安心感を与えてあげられる存在でありたい、という見解がありました。

SYMPOSIUM

【3】 優秀実践者発表

今回発表していただいた方々は、保育、看護、ベビーマッサージ・キッズマッサージ・アタッチメントジム、特別の各部門を代表してくれた方たちです。どの発表も示唆に富み、新たな気付きとヒントを与えてくれる有意義なものでした。どの方も素晴らしい実践をされていて、高い価値を提供されている方たちであると実感しました。

また、その発表を聴き入る参加者皆さんの真剣な、意欲に満ちた表情から、「ここにいるどの人が発表しても、きっと示唆に富んだ、気付きと学びを与えてくれるものに違いない」と、嬉しく、そして頼もしく思いました。



保育部門

寺井薫さん（神奈川県）

海外の幼稚園を含め、今まで8つの保育園・幼稚園で勤務したという経験を持つ寺井さん。そこで得たのは経験や知識だけでなく、「つながり」。それによって、現在の勤務先以外の保育園・幼稚園でも、ボランティアでベビーマッサージを広めていらっしゃいます。日々様子が変わる上に、大人数相手である保育園という場で、それぞれの地域のニーズに合わせた教室を展開するためには、園との事前の細かい打ち合わせがとても重要だということ、どんな場でも臨機応変に対応できるように、引き出しを多く持つておくことの大切さを教えてくれました。



看護部門

葛西友子さん（三重県）

ご主人の開業されているレディースクリニックで助産師として母乳外来とベビーマッサージを担当されている葛西さん。お教室では「言葉の持つ力」を大切に、アフターフォローに力を入れているとか。白衣を着た助産師や看護師に誉められることは、お母さんたちにとって嬉しさ倍増ということから、一生懸命のあまり追い詰められているお母さんたちに自己肯定感と自信を与えてあげられるような、心に寄り添うケアを大切にされていることを語ってくれました。なるほど！ 言葉の持つ力ってすごいんだ、と皆さん大きくなついていた。



ベビーマッサージ部門

浦中恵子さん（神奈川県）

3男2女のお母さんでありながら、ご自宅でベビーマッサージ教室「顔晴れる家」を開催しているパワフルな浦中さん。5児の母、看護師、育児セラピストの視点と経験知識を織り交ぜサポートし、地域のママたちの子育て・心の拠り所となっています。子育てを楽しむものにアシストしてあげられる育児セラピストという存在の重要性、やればここまでできる！という驚きと目標を与えてくれました。



第2回 育児セラピスト全国大会

【2】 交流会



シンポジウムの後の交流会では、参加者皆さんに、お住まいの都道府県名と名前、そして受講期が印刷された名札を各自付けていただき、昼食をとりながらカジュアルに自由に交流を楽しんでいただきました。

前日のスキルアップ講座「アタッチメント食育」を受けて、自然食を美しく、美味しく味わう食事として、「3p.m.さんじ」さんの食事をケータリングしました。今までの自然食の概念を覆すような、彩り豊かな盛り付けと、素材の風味を生かした美味しい味付けに、参加者の皆さんから「うわ～きれい！ 美味しそう！ 楽しい！」と歓声があがっていました。「これはどうやって作るのかしら、真似してみよう」といった声もあちこちで聞かれ、さすが女性ならではの、食や素材に対する興味と日々の食卓をダイレクトにイメージして賑わっていました。

そんな和気あいあいとした中、みなさん活発に交流されていました。ある方たちは、同期の仲間で盛り上がり、また、同じ地域同士で会話が進み、また今回は、『家庭の医学』で御馴染みの保健同人社さんも参加されていたため、さっそくベビーマッサージ教室を主宰するインストラクターに取材が行なわれていたりもしました。

交流の最後には、前日のアタッチメント食育講座の栄養学の講師、柏原幸代先生（健康食育検定協議会 理事長）によるプチ講話「美しく健康でいるための秘訣」を聞きました。講話から、これまでの食に関する勘違いや誤解に驚き、そして、美しくいることと、健康でいること、そしてきちんと食べることは、まったく同じ線上にあることを学びました。最後に記念撮影をしましたが、皆さんの笑顔と場の一体感は、とても感動的でした！



とっても楽しいです～

同志のおしゃべりは止まりません

柏原幸代先生

3pm 横田さん

トレーナー先生にご相談も

SYMPOSIUM

【4】 振り返りのワーク

最後に、このシンポジウム全体を通した振り返りのワークを行ないました。振り返りは、ワークシートを用いたグループワーク形式で、終わりに各グループの振り返りをシェアしました。育児セラピストたちそれぞれが、個々の問題や課題に気づき、そして、その解決法や行動方針を見出し、実際に 2012 年に向けて行動する決意を聞くことができました。

中でも、島田先生のいたグループでは、仙台在住で被災され、仮設住宅にお住まいのインストラクターが中心になって、ベビーマッサージを通して、被災地の心を豊かにするプロジェクトを、このグループで発足させよう！ というプロジェクトにまで発展。これには協会としても支援していく所存です。このようなことが全国大会の最後の締めくくりで起こることこそ、参加者の皆さんの意識の高さ、思いの強さ、ハートの熱さのなせる業だと胸が熱くなりました。

今回参加された方も、参加できなかった方も、ぜひ 2012 年の活動について、自分なりの方向性を考えてみてください。そして、それを実践に落とすための「はじめの一步」を考えてみてください。ほんの小さな、簡単なことでもかまいません。そして、その「はじめの一步」に、具体的な日付を入れてみてください。そうすれば、その瞬間から、あなたの 2012 年のシナリオが動き始めるのですから。



【Comments】 参加された方々の感想

今回、目に楽しいお料理から気軽に話しが広がって、育児セラピスト同士、ベビーマッサージの教室の運営ノウハウなど、それぞれの活動の情報交換ができたので、とても有意義な交流ができました。（乳児院勤務・神奈川県）

多くのインストラクターの方々がプロ意識を持って積極的に地域の子育て支援にかかわっていることに拍手、拍手の思いです。私もこのシンポジウムで多くのことを学ばせてもらい、知識や情報量が格段と増えました。それを今度は、我が子やママ友や周りの人に対して実践、提供していかなければ強く思いました。誰か一緒にできる仲間がいれば…そういう場をつくりたいです。（診療放射線技師・愛知県）

私は都内からでしたが、遠方から参加されている方が大勢いらっしゃることに、この大会の意味を感じました。パネルディスカッションも実践発表会もとてもわかりやすく、共感できるもので、参考になりました。これから現場で、お母さんたちの肩の力をスッと抜くことのできるアドバイスができそうです。（保育園園長・東京都）

実践発表会では、それぞれの方たちの思いや方法を直接聞けて、これからママたちにABMを伝えていく上で、大変参考になりました。時に涙が出そうになりながらも共感し、励まされました。この全国大会でできた絆を大切に、私も、子育てが楽しいと感じる環境と一緒に創っていききたいと思います。（保育士・埼玉県）

第2回 育児セラピスト全国大会

【3】優秀実践者発表



キッズマッサージ・アタッチメントジム部門

齋藤志保さん（東京都）

ご自宅での教室開催、サークル、出張教室、広場事業としての育児支援など、バラエティな展開で精力的に活動をしている齋藤さん。ベビーマッサージで育てたママたちとの温かい関係をキッズマッサージ・キッズジムへとつないで、豊かな支援を提供していること、子どもの成長を継続的に見守れる喜びとやり甲斐を語ってくれました。他にも知育遊びやクラフト、ママ体操など、ママたちの多様なニーズに対応した見事なノウハウを紹介。こんなやり方もあるんだ！という気づきと感銘を与えてくれました。



特別部門

榊原龍子さん（愛知県）

なんとも温かな存在感と独特の楽しい語りで、会場をほんわかしたムードと笑いに包んだ「お母さん」こと榊原龍子さん。ご自身のプロフィールから協会トレーナーを経て、地元地域でのベビーマッサージ教室の様子などをお話くださいました。神尾由季さんとの出逢いのエピソードをもとに、“アタッチメントの大切さを伝えることで若い母親たちの心が動き、今度はその人たちがアタッチメントの“たすき”を次につないでくれる”喜びを語り、アタッチメントを伝えつないでいく価値と素晴らしさを教えてくれました。



特別部門

神尾由季さん（愛知県）

自身が子育てに悩み、辛い時期にアタッチメントベビーマッサージの教室に参加して、大いに救われたという神尾さん。その経験から、今度は自分がママたちを支える存在になりたいと ABM 資格を取得。先輩の榊原龍子さんのお教室から学んだことを活かして、立派に独り立ち。現在、協会のセミナールームを利用して開催されているベビーマッサージ教室の様子を、生き生きと語ってくれました。自身の体験を人のために役立てようというエネルギーと、形にしていける実行力は、大いに皆さんのお手本となったと思います。



淑徳短期大学「育児学」第一期卒業生 活動報告

齋藤麻衣さん（東京都）

淑徳短期大学の保育士養成課程において、ABM ベビーマッサージインストラクターと育児セラピストの資格を取得する『育児学』の第一期生 OG による、卒業後の活動報告を行ないました。一期生の中でもひととき頑張張り、卒業後めでたく保育士として保育園に勤務している齋藤さん（写真左）。育児学を勉強した思い出と、今の充実した楽しい保育士ライフを語ってくれました。講義で学んだ知識や身につけたスキルが、実際の現場で即戦力として活かせること、また、アタッチメントベビーマッサージの資格が就職にも役立ったことを語ってくれました。

FOR
NEXT

この優秀実践者の表彰ならびに発表は、「育児セラピスト全国大会」で毎年行われる予定です。インストラクターみなさんに機会が与えられています。次回の「実践レポート提出&選考会」へのみなさんのご参加をお待ちしています。

SKILL UP COURSE

【2】 栄養学

健康食育検定協議会 理事長 柏原幸代先生

栄養学では、子どもの食を考える際、まずはお母さんの食生活を適正化する必要がある、という柏原先生のお話は印象的でした。お母さんの食生活が乱れていると、子どもの食生活も同様になってしまう、ということです。他にも印象的だったのは、「食選力」という考え方、そして「お米」が一番！ お米は健康づくりのベースとなる、というお話でした。

ここでは、健康や安全をイメージさせる様々な商品名や、うたい文句といった「情報」に流されず、実際がどうなのかを見抜く「知識」を学ぶことができました。例えば、低脂肪乳は、牛乳よりも本当に良いのか？ ハーフタイプのマヨネーズは、通常のマヨネーズよりも健康的なのか？ それらを見抜く「力」、なぜそうなのかを理解する「力」を身に付けることによって、情報に左右されない食生活を実現できることを実感しました。



【3】 歯学

医療法人ワールデント 理事長 高田朋太郎先生

歯学では、食べることににおいて最も重要であり、お母さんの大きな関心ごとでもある「歯」について、新たな発見がありました。よく「噛む」ことが、いい唾液を出し、子どものあごを育て、脳を発達させ、さらに心も育てる。「噛む」という、今まで当たり前としか思っていなかったことが、いかに子どもの成長を左右する重要なことであるか、を痛感しました。

また、お母さんがこれらの「口の中のこと」を知識として知っていることによって、子どもの歯の健康や歯並びを良い状態に保つ、あるいは深刻な状況を避けることができることがわかりました。ぜひとも、支援の現場を通じて、お母さんたちに知ってもらいたい知識だと思います。



スキルアップ講座 2011. 12. 17 Sat

アタッチメント食育講座

—親と子のための食育—

全国大会1日目は、スキルアップ講座として、「アタッチメント食育インストラクター養成講座」を開催しました。受講生の食育への興味は大きく、たいへん盛り上がりました。この講座は、心理学、栄養学、歯学の3部構成で、0期の今回はテキスト制作およびカリキュラムの監修をお願いした3人の先生方に直接ご登壇いただきました。

今回のアタッチメント食育では、親が子どもの成長のために学ぶ食育、親子のための食育をテーマとしています。単なる食の教育という観点だけではなく、「子どもの心の成長と食」の観点から食育を学びました。



【1】心理学

(社) 日本アタッチメント育児協会 代表理事 廣島大三先生

心理学では、発達心理学と併せて、年齢を経て発達していく、アタッチメントと食の深い関わりについて学びました。

マズローの欲求段階説になぞらえて、食の欲求と目的が昇華していく過程で、「何を食べるか」だけでなく、「誰と食べるか」「どのように食べるか」ということが重要となり、それらをすべて含めて食育であるという気付きを得るきっかけとなりました。



FROM STAFF

ベビーマッサージを伝えていく過程で、内からのケア、食というものは切り離せないことをずっと考えてきました。これからを担う子どもたちの心身ともに健やかな成長のために、ほんの少しでもお役に立てることができたらと思います。

(自宅サロン経営/リンパセラピスト養成・千葉県)

食育には以前から関心があり、今後の仕事の新しい方向性になるのでは、また自分自身のためにも学べればと思い、受講しました (看護師・埼玉県)

今までイメージしていた食育と全然違いました。アタッチメントを背景に、豊かな親子の食生活をするのが、子どもの体だけでなく脳も心も育てるのですね。賢い子どもは食からつくられる。アタッチメントパワーを再認識しました。

(幼児教室勤務・神奈川県)

まったく初めての経験で、現在妊娠7ヶ月のため、今後の自分の育児のために役立てたいと思って受講しましたが、たくさんの役に立つことを吸収した今の時点では、こういった内容を1人でも多くの人に伝えたい気持ちが高まり、さらにたくさんの方のことを学びたいとも思いました。今まで知らずに間違っていた知識もあり、新しい発見や情報もたくさんあったので、受講して本当に良かったと思いました。(ダイビングインストラクター・宮城県)

【A word of thanks】事務局スタッフより

(社)日本アタッチメント育児協会事務局 梅原礼子



シンポジウムでは、つたないながらも司会を務めさせていただきました。至らない点も多々あったかと思いますが、皆様のご協力で無事終えることができましたことを心よりお礼申し上げます。また、お忙しいなか全国からたくさんの方々にご参加いただき、皆様とお会いできましたことに深く感謝いたします。本当にありがとうございました。

(社)日本アタッチメント育児協会事務局 阿部智子



今回、全国大会の企画運営にあたらせていただきました。実際に皆様が集まる場に立ち会うことで、育児セラピスト・ベビーマッサージインストラクターの方々のすばらしさと頼もしさを肌で感じることができ、とても嬉しく思っております。来年もたくさんのすばらしいインストラクターの方にお会いしたいと思います。ご協力いただいた皆様、参加していただいた皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

第2回 育児セラピスト全国大会

【アタッチメント食育講座】 カリキュラム監修の先生方からのメッセージ



今のお母さんには、「こうしなくちゃいけない」というプレッシャーや、「食べてくれない」というストレスに苦しんでいる方が多いです。子どもの健やかな成長にとって、食事というのはもっと楽しく美味しく、が前提でなくては。そして親がよいお手本になることが重要です。この講座は、数字や栄養素にこだわらず、毎日の暮らしの中で実践しやすく考えやすい“食事の発想”を学ぶことができます。食に関して専門家として知識を持って伝えたり、悩みを聞いてあげられると、支援のノウハウも広がり、お母さんとの信頼関係も築きやすいと思います。

（健康食育検定協議会 理事長 柏原幸代先生）



講座のポイントは「いい顔を作ろう・そのためにできることは？」です。あごをしっかりと使ってよく噛んで食べることが脳を活性化させ、消化を助け、いい顔やいい姿勢を作ります。つまり、食べることは体をつくり心もつくる、とても大切なことなのです。口の中のことは、歯科医師以外はほとんど知りません。歯にまつわる専門知識は育児支援現場ですごく役に立つでしょう。ぜひ伝えていって下さい。（医療法人ワールドント 理事長 高田朋太郎先生）

【Comments】 受講された方々の声

食べることは、食べ方や歯も大事ですが、心の中も大事であること、食べることは人生をすべて演出している、食べることで本当に大切なのだと実感し、栄養士という自分の仕事の責任の大きさや意義を再認識しました。これからどんどん教えていただいたことを広めていきたいと思います。

（栄養士・滋賀県）

まず、子育てって楽しむことが大切だと伝えることが一番で、アタッチメント同様、食べることも楽しみながら、愛情を持って伝えていかなくはいけないと学ぶことができました。知識だけでなく実践して初めて支援になると聞いて、これからの活動に対してますます意欲が湧いてきました。

（保育士・東京都）

自分が間違った知識を持っていて、ええ！？とビックリしたことがたくさんありましたが、この講座で勉強したことを参考に、自分自身の食生活を見直そうと思います。今、2歳8ヶ月と、8ヶ月の2人の娘の食育に本当に役に立ちました。間違った知識、知らないということは本当にコワイと思いました。

（主婦・東京都）

実践していくのに、私の知識として食育を学べて、たいへん良かったと思っています。家族で食事することは、子どもの心にも良い発達をもたらす。お母さんたちに、食事の大切さ、家庭の原点を知ってもらいたいと思いました。食卓は、家庭の原点だと思います。

（ベビーマッサーインストラクター・奈良県）



2012年3月8日 第一刷発行

監修・発行 ：一般社団法人 日本アタッチメント育児協会
【 <http://www.naik.jp/> 】

E-mail: info@naik.jp

〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山 2-15-14

パックス金山 4F

TEL:052-265-6526 FAX:052-265-6529

一般社団法人 日本アタッチメント育児協会 公式ブック



● アタッチメントベビーマッサージ ―感性豊かで幸せな子どもに育つ―

廣島 大三(著), 寺下 謙三(監修), 保健同人社(出版)
定価: 1,260 円

赤ちゃんが生まれたらベビーマッサージを始めてみたい、と思っているお母さんは少なくありません。ベビーマッサージはオイルを使ってお母さんの手で赤ちゃんにマッサージをすることですが、大切なのは、お母さんと赤ちゃんの絆をしっかりと結ぶことです。本書では、発達心理学の観点から、お母さんと赤ちゃんのアタッチメント(愛着関係)をしっかりと作り、情緒豊かな「幸せな子ども」に育てるためのベビーマッサージを紹介します。



● 6歳までのアタッチメント育児 子どもを伸ばす愛情の表し方・与え方 8つのメソッド

廣島 大三(著), 合同出版(出版)
定価: 1,470 円

親子の「アタッチメント(=愛着関係)」を育めば、子どもをもっと愛せる、子どもはもっとHAPPY! になる。親が親として成長し、ストレスがやりがいに変わる! 心やさしく、知的好奇心にあふれた、頭のよい子どもが育つ! アタッチメント育児にLet'sトライ!

アタッチメント理論の基本概念から、親子の日常の営みの中でアタッチメントを育む具体的なメソッドまで。

全国書店・インターネット書店・
Amazon.co.jp で発売中!





<http://www.naik.jp>

一般社団法人 日本アタッチメント育児協会